

令和5年度 学校評価票【集計】 (小学部児童)

福島県立視覚支援学校

【記入について】

1 このアンケートは、みなさんの学校生活をより良くして楽しい学校生活にするために行うものです。

2 記入については、それぞれの番号について、

たいへんよい・・・・・・A

よい・・・・・・B

あまりよくない・・・・C

わるい・・・・・・D

のあてはまるところに、○を記入してください。また、わからないときは、何も書かなくてもかまいません。

番号	質 問	評価段階			
		A	B	C	D
1	先生たちは、あなたの見え方などに合わせた、わかりやすい・もっと知りたいと思える授業をしていますか。	4 100 %			
2	先生たちは、進みたい学校や将来なりたい仕事について、みなさんの話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていますか。	3 75%	1 25%		
3	先生たちは、各種大会（弁論大会、体育大会等）やコンテスト（図工や美術の作品作り等）への参加や応募に向けて、力になってくれていますか。	4 100 %			
4	先生たちは、聞いたり触ったりする体験学習をたくさん行ってくれますか。	4 100 %			
5	あなたは、ほかの学校の児童生徒と一緒に学習やオンライン交流に楽しく参加していますか。	4 100 %			
6	あなたは、先生たちの教えをうけ、自分の健康について、自分で気をつけることができますか。	4 100 %			
7	あなたは、先生たちの教えをうけ、自分の健康を考えながら給食などの食事をしていますか。	2 50%	2 50%		
8	(寄宿舍のみみなさんのみ答えてください) あなたは、寄宿舍の生活で、寄宿舍の先生たちの教えをよく聞き、自分でできることは自分でしていますか。				

うらにつづきます

9	(寄宿舍のみ皆さんのみ答えてください) 寄宿舍の先生たちは、あなたの健康や生活に合わせて、 いっしょに考えて支援をしていますか。				

○みなさんから見て、学校のよい点があれば書いてください。

- ・ 入ったばかりの人にも、先生方が教えてくれると学校になじみやすい。
- ・ 授業がわかりやすい。
- ・ 校内の点字ブロックは学習になる。(小学部教員補足：校内に点字ブロックがあることで点字ブロックを利用して安全に歩くための学習が、屋外に出たときだけでなく、校内でもできるのがよい。)
- ・ 避難訓練が毎年あって安心できる。
- ・ 休み時間に、先生がボールで遊んでくれるところ。
- ・ 幼稚部の廊下の飾りがきれい。
- ・ 点字ブロックがたくさんあるところ。

○学校が、こうすればもっとよくなると思う点があれば書いてください。また、C、Dに○を書いた人は、その理由を書いてください。

- ・ 消防設備がもっとふえるといい。まだ設置されていないもの、エレベータ前の廊下などにもけむりの探知機などがあれば安心できる。(小学部教員補足：社会科の調べ学習で消防設備を調べたとき、管理棟はエレベータ前に煙感知器がない(図書室前と職員室前にはありませんが)間隔が空いている)と思ったのかもかもしれません。)
- ・ トイレにジェットタオルがほしい。
- ・ 校庭を広くしてサッカーをやりたい。
- ・ 昼休みをもう少し長くしてほしい。

小学部児童対象の学校評価アンケートの分析

(1) 「深い学び」

質問1、質問4では、いずれもAが100%の高評価となりました。教師が、本校の研修テーマである「深い学びの姿」について研究を深めたうえで、普段から緊密に情報交換をすることによって、各教科や総合的な学習の時間等の授業実践に生かすことができた成果であると考えられます。

また、新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、各教科等の授業において昨年度以上に地域の施設や人的資源を活用した校外学習や出前授業などを実施することができました。そのことにより、児童の学習課題や興味関心に応じた体験的な学習を展開することができたことが、児童の学びの達成感・充実感につながっているものと思われます。次年度においても、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて努力を続けてまいります。

(2) 「豊かな人間性と社会性」

質問3、質問5では、いずれもAが100%の高評価となりました。合同運動会(聴覚支援福島校・福島第四小学校)、福島第四小学校とのえがお交流、東北地区の盲学校・視覚支援学校とのオンライン交流、校外学習等を、年間計画に基づいて継続して行うことができました。

また、福島市福祉作品展、わたしとみんなつ小学生新聞コンクール等の各種コンクールにおいて入賞する等、丁寧な指導が成果に結び付きました。さらに、全国盲学校珠算競技会や視覚障害者珠算検定に挑戦させる等、児童の珠算技能の向上に向けて継続的に指導を行いました。他校と

競い合ったり、級認定を受けたりする機会があることで、児童も目標をもって努力し、自分の実力を客観的に評価することができたようです。

（３）「心と体を守る力」

質問６、質問７では、おおむね高評価でした。学校と家庭の連携を重視して、インターネット動画やゲームの利用のしかた、朝食の摂り方等、健康に気を付けた生活について指導を行った成果であると考えられます。また、健康面に配慮した給食の提供や食育の推進に努めてきた成果でもあると考えられます。

令和5年度 学校評価票【集計】 (中学部生徒)

福島県立視覚支援学校

【記入について】

1 このアンケートは、みなさんの学校生活をより良くして楽しい学校生活にするために行うものです。

2 記入については、それぞれの番号について、

大変良い・・・・・・・・A

良い・・・・・・・・B

あまり良くない・・・C

悪い・・・・・・・・D

のあてはまるところに、○を記入してください。また、わからないときは、何も書かなくてもかまいません。

番号	質 問	評価段階			
		A	B	C	D
1	先生たちは、あなたの見え方などに合わせた、わかりやすい・もっと知りたいと思える授業をしていますか。	3 75%	1 25%		
2	先生たちは、進みたい学校や将来なりたい仕事について、みなさんの話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていますか。	3 75%	1 25%		
3	先生たちは、各種大会（弁論大会、体育大会等）やコンテスト（図工や美術の作品作り等）への参加や応募に向けて、力になってくれていますか。	4 100%			
4	先生たちは、聞いたり触ったりする体験学習をたくさん行ってくれますか。	2 50%	2 50%		
5	あなたは、ほかの学校の児童生徒と一緒に学習やオンライン交流に楽しく参加していますか。	3 75%	1 25%		
6	あなたは、先生たちの教えをうけ、自分の健康について、自分で気をつけることができますか。	3 75%	1 25%		
7	あなたは、先生たちの教えをうけ、自分の健康を考えたながら給食などの食事をしていますか。	4 100%			
8	(寄宿舍のみみなさんのみ答えてください) あなたは、寄宿舍の生活で、寄宿舍の先生たちの教えをよく聞き、自分でできることは自分でしていますか。	2 100%			

うらにつづきます

	(寄宿舍のみ皆さんのみ答えてください)	2			
9	寄宿舍の先生たちは、あなたの健康や生活に合わせて、いっしょに考えて支援をしていますか。	100%			

○みなさんから見て、学校のよい点があれば書いてください。

- ・キャスター付きのテレビがあるところ。
- ・給食がおいしい。
- ・授業がわかりやすい。
- ・自分の見え方に応じて授業や相談にのってくれる。

○学校が、こうすればもっとよくなると思う点があれば書いてください。また、C、Dに○を書いた人は、その理由を書いてください。

- ・水道の水圧が弱いところがある。(3階水道の中央の蛇口)
- ・水道のお湯がでたらうれしい。(冬季)

中学部生徒対象の学校評価アンケートの分析

(1) 「深い学び」

質問1、質問3、質問4では、いずれもABの高評価となりました。一人一人の教育的ニーズの整理や、スタッフ会をはじめ、生徒一人一人の見え方や授業内容、学習時の様子について日頃の情報交換の実施、効果的な場面でのICT機器の活用等、授業改善や総合的な学習の時間等の授業実践に取り組んだ成果であると考えられます。

質問3に関してはA評価が10割となっています。部活動や東北地区盲学校文化体育大会(弁論)等への参加、美術作品の発信などの成果であると考えられます。総合的な学習の時間は、昨年度取り組んだ震災の学習を受けて、防災をテーマに実施しました。コミュニティ福島や郡山市の消防本部と連携し、実験や体験を通して生徒達が考えを深められるよう図りました。学習した内容は、学習成果発表会で発表させました。学習を通して、探究的な見方・考え方を習得させ、情報の収集や整理、分析、表現する力を身に付けさせることができたと考えています。

しかしながら、体験に関する質問4に関しては、AB共に5割であり、「深い学び」に関する質問の中では、満足度が低いことがわかります。今後も、生徒の深い学びに寄与できるような体験学習を計画的に推進する必要があると考えています。

(2) 「豊かな人間性と社会性」

質問2、質問5では、どちらもABの高評価となりました。質問5に関しては、静岡県立沼津視覚特別支援学校とのオンライン交流等を、年間計画に基づいて継続して行うことができました。また、東北盲学校文化大会弁論の部への出場や生徒一人一人の良いところを見いだして丁寧に指導してきたことが成果に表れたと考えられます。

質問2について、進路週間では、スーパーマーケットやホームセンターなどの身近な職場での体験学習を年に1~2回設けて実施しました。実際の体験を通して、豊かな心で積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができました。

また、丁寧な進路指導を行ったことで、自己の在り方や生き方に対する関心を高められる機会を設けたことが回答に反映されたと考えられます。今後も生徒が進路実現に向けてより一層意識を高められるように具体性をもった指導を図ってまいります。

(3) 「心と体を守る力」

質問6、質問7、質問8、質問9のいずれもABの高評価となりました。心身の健康や感染症予防に関する日常的な指導に加えて、情報モラル教室や薬物乱用防止教室の実施等、衛生的で望

ましい生活習慣について計画的に指導を続けてきた成果であると考えられます。

質問6に関しては、健康診断や自身の定期通院に合わせて、自身の視覚障がいに関して理解を深められるよう各学級で指導を図っています。その結果、医師とのやりとりを通して、自ら生活上の留意事項を意識して行動するような態度を育成することにつながったと考えています。質問7に関しては、A評価が10割となっていますが、食事の仕方だけでなく運動も含めた生活習慣に関する指導を継続して実施していくことが必要であると考えております。これからも、学校、寄宿舍と家庭の連携を密にしながら、生徒が自らの健康に関する意識を高められるように努力してまいります。

令和5年度 学校評価票【集計】 (高等部普通科生徒)

福島県立視覚支援学校

【記入について】

1 このアンケートは、みなさんの学校生活をより良くして、楽しい学校生活にするために行うものです。

2 記入については、それぞれの項目の番号について、

大変良い . . . A

良い . . . B

あまり良くない . . . C

悪い . . . D

の欄に○を記入してください。また、わからないときは、○を記入しなくてもかまいません。

番号	質 問	評価段階			
		A	B	C	D
1	先生たちは、教材の工夫や支援機器の活用により、あなたの見え方等に合わせ、わかりやすい・興味関心のもてる授業をしていますか。	7 88%	1 12%		
2	先生たちは、進路や将来就きたい仕事について、みなさんの話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていますか。	8 100%			
3	先生たちは、学習指導や行事、各種大会やコンテストへの参加や応募に向けて、様々な場面で十分な支援をしていますか。	7 88%	1 12%		
4	(理療科の生徒のみ教えてください) 先生たちは、臨床実習の指導や国家試験の合格に向けて、様々な場面で十分な支援をしていますか。				
5	先生たちは、みなさんの達成感や人間性育成のために体験活動を積極的に取り入れていますか。	8 100%			
6	あなたは、学校での様々な活動を通じて、他の学校の生徒や地域の方との交流をすることができますか。	7 88%	1 12%		
7	あなたは、先生たちの指導のもと、自分の障がいの状況や日頃の健康状態について把握し、適切な自己管理ができていますか。	5 63%	2 25%	1 12%	

うらにつづきます

8	あなたは、学校給食等を通して、食全般において、健康を考えながら食事をしていますか。	4 50%	3 38%	1 12%	
9	(寄宿舍を利用する生徒のみ答えてください) あなたは、寄宿舍の生活において、自分のことは自分とする等、自立に向けた生活ができていますか。	3 60%	2 40%		
10	(寄宿舍を利用する生徒のみ答えてください) 寄宿舍の先生たちは、あなたの健康や生活に合わせて、一緒に考えて支援をしていますか。	4 80%	1 20%		

○みなさんから見て、学校の良い点があれば書いてください。

- ・清掃員さんが学校をきれいに保ってくださっている。(スクールサポートスタッフや校務員の方々)
- ・先生がたが多く、相談しやすい。
- ・学校の先生は話を聞いてくれる。
- ・先生たちは、相談にのってくれる。
- ・授業や給食の時、さまざまな支援をしてくれる。
- ・先生と生徒の距離が近いところ。
- ・分からないところなどを質問しやすい。
- ・点字ブロックがあって歩きやすいです。
- ・トイレが狭くて使いやすいです。(トイレが広すぎると、どこに何があるのか、わかりにくいのだと思われます。)
- ・先生方がその時に(学校生活のさまざまな場面で)使う物を分かりやすく教えてくれる。

○こうすれば学校がもっと良くなると思う点があれば書いてください。
また、CやDの評価をつけた人はその理由を書いてください。

- ・他校との交流を増やしてほしい。

高等部生徒対象の学校評価アンケートの分析は、以下の理療科生徒のアンケート結果の後に、記載しました。

令和5年度 学校評価票【集計】 (高等部理療科生徒)

福島県立視覚支援学校

【記入について】

1 このアンケートは、みなさんの学校生活をより良くして、楽しい学校生活にするために行うものです。

2 記入については、それぞれの項目の番号について、

大変良い . . . A

良い . . . B

あまり良くない . . . C

悪い . . . D

の欄に○を記入してください。また、わからないときは、○を記入しなくてもかまいません。

番号	質 問	評価段階			
		A	B	C	D
1	先生たちは、教材の工夫や支援機器の活用により、あなたの見え方等に合わせ、わかりやすい・興味関心のもてる授業をしていますか。	4 80%	1 20%		
2	先生たちは、進路や将来就きたい仕事について、みなさんの話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていますか。	5 100%			
3	先生たちは、学習指導や行事、各種大会やコンテストへの参加や応募に向けて、様々な場面で十分な支援をしていますか。	4 80%	1 20%		
4	(理療科の生徒のみ答えてください) 先生たちは、臨床実習の指導や国家試験の合格に向けて、様々な場面で十分な支援をしていますか。	4 80%	1 20%		
5	先生たちは、みなさんの達成感や人間性育成のために体験活動を積極的に取り入れていますか。	3 60%	2 40%		
6	あなたは、学校での様々な活動を通じて、他の学校の生徒や地域の方との交流をすることができますか。	4 80%	1 20%		
7	あなたは、先生たちの指導のもと、自分の障がいの状況や日頃の健康状態について把握し、適切な自己管理ができていますか。	3 60%	1 20%	1 20%	

うらにつづきます

8	あなたは、学校給食等を通して、食全般において、健康を考えながら食事をしていますか。	2 50%	1 25%		1 25%
9	(寄宿舍を利用する生徒のみ答えてください) あなたは、寄宿舍の生活において、自分のことは自分です等、自立に向けた生活ができていますか。	2 100%			
10	(寄宿舍を利用する生徒のみ答えてください) 寄宿舍の先生たちは、あなたの健康や生活に合わせて、一緒に考えて支援をしていますか。	2 100%			

○みなさんから見て、学校の良い点があれば書いてください。

- ・臨床実習を通して、外部の患者さんと積極的に交流の機会を作っている。

○こうすれば学校がもっと良くなると思う点があれば書いてください。
また、CやDの評価をつけた人はその理由を書いてください。

高等部生徒対象の学校評価アンケートの分析

(1) 「深い学び」

質問1では、85%がAの評価を付け、AB評価で見ると100%となりました。本校の研修テーマである「教育的ニーズ」について研究を深め、的確に生徒の教育的ニーズをとらえ、各教科において授業改善に取り組んだ成果であると考えられます。また、研究協力校として、PDF版拡大図書の活用や一人一人に合ったICT機器の効果的な活用を推進したことも「分かりやすい・興味関心のもてる授業」へと大きな効果をあげたと考えられます。

質問4では、80%がAの評価を付け、AB評価で100%となりました。臨床実習の機会の確保や基礎的知識を実技に応用できるよう、課題をフィードバックし生徒と教師が共有して指導に努めました。

(2) 「豊かな人間性と社会性」

質問2では、全員がAの評価を付けました。進路週間では、一人一人の実態や希望に合わせ、専門学校、理療科における体験、ペットショップ、就労継続支援B型事業所、生活介護事業所等での体験学習を通じて、自己のライフプランや目標について考える等、自立や社会参加に向けた進路意識を育む教育活動を展開しました。

質問3、質問5では、ABの高評価が多くを占めました。東北地区盲学校文化体育大会（弁論）や作業技能大会、フロアバレーボール大会、臨床体験発表会、美術作品展応募等、個々に応じた継続的な指導の成果であると考えられます。

質問6では、85%がAの評価を付け、AB評価で見ると100%となりました。今年度は、東北地区盲学校文化大会や高校音楽祭への参加、点字ブロック理解推進キャンペーン、マッサージを通じたボランティア活動、ジョイントコンサート等の交流活動を行いました。交流活動が再

開されたことで、地域の人々との交流の機会が生まれ、一人一人の力を生かした学校内外での活躍により、個々の満足感へとつながっていると考えられます。

(3) 「心と体を守る力」

質問2については、(2)で前述した通り高評価を得ていますが、担任、担当を中心にしてきめ細かな生徒との相談及び支援を行い、教職員間で共通理解を図ることで、全教職員で生徒をサポートできる体制を整えてきた成果であると考えられます。また、養護教諭やスクールカウンセラー、病院の医師等との情報交換により適切な対応へとつながっていると考えております。

一方で、質問7、質問8では、いずれもCDの低評価が見られました。自分の障がいや食生活改善について考えてはいるものの、適切な自己管理を実行することが難しい様子が見受けられます。

今回の評価において、「深い学び」、「豊かな人間性と社会性」、「心と体を守る力」の3つの観点で、おおよそABの高評価となりました。生徒と教員とが寄り添い合って学校生活を送ることができているようではありますが、どのような環境を整えていくことによって、生徒自身の自己管理や自己解決が可能となっていくのかについて、引き続き、教職員全体で考えていく必要があると考えられます。今後は、個々の教育的ニーズをより一層的確に把握しながら、適切な目標の設定及び手立てを考え、指導の工夫を教職員間で模索しながら、きめ細かな計画に基づいて教育課程を実施していくよう努めてまいります。

令和5年度 学校評価票【集計】 (保護者合計)

福島県立視覚支援学校

【記入について】

- 1 この評価は、令和5年度の学校経営・運営ビジョンへの取り組みについて評価をいただき、学校経営を改善するために行います。
- 2 回答の方法は、それぞれの項目の番号の評価段階について、該当するものを以下の要領で記入をお願いします。
なお、判断できない場合、○を記入しなくてもかまいません。

よく当てはまるA
だいたい当てはまるB
あまり当てはまらないC
まったく当てはまらないD

該当する評価段階についてA、B、C、Dの欄に○印を記入してください。
なお、お気づきの事などがあれば、下の空欄に記入くださるようお願いいたします。

★評価段階の百分率には、無回答は含まれていませんので、合計が100%にならない項目もあります。

項目	番号	評 価 内 容	評 価 段 階			
			A	B	C	D
深い学び	1	学校は、教材の工夫や支援機器の活用により、幼児児童生徒一人一人の見え方の状態や障がいの特性に配慮し、興味関心をもたせ、進路実現に必要な確かな学力向上のための支援をしていますか。	19 83%	3 13%		
	2	学校は、視覚障がい教育の専門性と少人数を生かした個別指導を充実させ、ICTを効果的に活用し、実際の社会で生き生きと生活できる力を育成していますか。	18 78%	4 17%		
	3	(理療科生の保護者のみお答えください) 理療科では、地域の方々への臨床実習を通し、実技力の向上を図るとともに国家試験の合格へ向けて十分に指導していますか。	4 80%	1 20%		
豊かな人間性と社会性	1	学校は、触れる・確かめる等の実際の体験を大切に活動した活動を積極的に取り入れていますか。	17 74%	4 17%	1 4%	
	2	学校または各学部は、他校の児童生徒との交流(オンライン交流等も含む)や共同学習を充実させ、お互いが学び合う教育活動を行っていますか。	14 61%	8 35%		
	3	学校は、学校に設置されている地域支援センターや特別支援教育コーディネーターを中心に視覚障がいを有する方とその家族を支援していますか。	14 61%	6 26%	1 4%	
	4	学校は、啓発活動(点字ブロックキャンペーン等も含む)を推進し、視覚支援学校の教育活動の理解・啓発を積極的に行っていますか。	18 78%	5 22%		
心と体を守る力	1	学校は、幼児児童生徒が、自分自身の健康への関心を高め、適切な自己の健康管理を行うよう指導していますか。	16 70%	7 30%		
	2	学校は、給食等を通じた食育を積極的に行い、保護者や幼児児童生徒が食への関心と理解を深めるよう努めていますか。	16 70%	6 26%		1 4%
	3	(寄宿舎生の保護者のみお答えください) 寄宿舎では、保護者と指導員の連携を図り、寄宿舎生の生活を充実させ、児童生徒の自立に向けた生活能力の向上のために適切な指導をしていますか。	9 90%	1 10%		

○お気づきの点やC、Dの理由をご記入ください。

- ・「豊かな人間性～4」 校内での推進はできていると思います。啓発活動も行ってはいますが、一般の方への周知が足りないと思っています。皆でアイデア等を出し合うのも良いのかと思いました。
- ・「豊かな人間性～4」 地域支援センターや特別支援コーディネーターとの関わりがあまりなく、どのようになっているのか分からない事が多いです。今後相談員さんと契約している方が出てくる時に相談員さんと学校とのつながりがあった方が良いのだと思いますが(時に担当者会議というのが行われる)、学校ではそのようなものには関わる事はないのでしょうか？

- ・少人数のため、本当に子どもに合わせた指導をして下さっています。本人も学校が大好きです。ありがとうございます。
- ・御指導は大変かと思いますが、今後共宜しくお願い致します。
- ・オンラインの設定はしたものの、一度も活用できていないので、学校内でもよいので使用して使えるように指導してほしいです。

保護者対象の学校評価アンケートの分析

(1) 「深い学び」

いずれの質問においても、ほぼ8割以上がAで、残りの2割程度も全てBという高い評価となりました。視覚障がいのある幼児児童生徒の教育的ニーズを的確に把握し、福島県が推進する「学びの変革」に基づく授業実践を続けてきた成果であると考えられます。学校の教育活動の根幹である「深い学び」に対して、多くの保護者から強い信頼を得ていることは本校の強みであるといえます。

特に、今年度開設した幼稚部の保護者からは、幼児一人一人の実態に合った教育活動が行われていることについて深い理解が得られていることが明らかになりました。

昨年度は評価の芳しくなかったICTの活用については、児童生徒の深い学びの充実と教職員の指導力向上を目標に、授業で積極的に活用を試みる教職員が増えました。

また、質問3の高等部理療科の取組みに対する高い評価は、国家試験合格のために授業と臨床実習を関連させながら専門性の高い指導を継続し、他県と比べても高い合格率を維持できていることが、保護者への信頼感につながっていると考えられます。

(2) 「豊かな人間性と社会性」

質問1、質問2、質問4では、ABの高評価となりました。日ごろの保護者や家庭との連絡や、学級だより、公式ウェブサイト、学校ブログnote等を通して、幼児児童生徒の体験的活動や地域や近隣の学校との交流や共同学習の様子や成果が、保護者にも十分に伝わっていることが明らかになりました。

また、本校高等部生徒の部活動や自立活動の様子、点字ブロック理解推進キャンペーンや盲導犬体験会、本校卒業生でパラリンピック柔道代表選手の半谷静香さんによる講演会、落語のワークショップ、ラジオ福島チャリティーミュージックソン出演等、新聞やテレビ、ラジオで広く報道されたことも高評価の一因であると考えられます。

一方で、質問3については、「地域支援センターや特別支援コーディネーターとの関わりがあまりなく、どのようになっているのか分からない事が多い。」というご意見をいただきました。今年度幼稚部に入学した幼児を始め、本校に在籍するほとんどの幼児児童生徒保護者は、これまでに地域支援センターの支援を受け続けてきています。入学後の学校生活が充実しているとの評価を得ていることにつきましては、本校の地域支援センターが、切れ目のない支援や啓発活動を継続してきたことによるところが大きいと考えられます。また、今年度の幼稚部開設に伴い、本校幼稚部への入学という新たな選択肢を、障がいのある乳幼児の保護者に提示できるようになったことも大きな進歩であると考えております。

年間300件にも上る、校外での相談支援業務や啓発活動の重要性や成果を保護者にどのようにお伝えしていくか、そして、学校に在籍している幼児児童生徒と保護者への支援をどのように充実させていくかについて、今後も絶えず考えていく必要があると考えます。

(3) 「心と体を守る力」

ほぼ全ての質問において、高評価となりました。自身の健康の維持管理に係る教育活動を推進し、健康な体を育む食習慣の基礎を培うための食育を推進した成果が表れたと考えられます。また、昨年度よりも保健室来室者が減少したことも一つの成果と考えております。

一方、学校評議員の意見を受けて、今年度より、寄宿舎での指導についての評価項目を新設しました。初年度は高い評価を得ることができました。引き続き、保護者と寄宿舎指導員の連携を図りながら、寄宿舎生の生活の充実及び児童生徒の自立に向けた生活能力の向上のために適切な指導をしてまいります。

令和5年度 学校評価票【集計】 (教職員用)

福島県立視覚支援学校

【記入について】

1 この評価は、経営・運営ビジョンへの取組みを評価し、課題を把握して、対策を講じ、学校経営・運営の改善を目指すものです。

2 記入については、それぞれの項目の番号について、

よく当てはまる・・・A

だいたい当てはまる・・・B

あまり当てはまらない・・・C

まったく当てはまらない・・・D

の欄に○を記入してください。また、わからないときは、○を記入しなくてもかまいません。

※ 評価段階の百分率には、無回答が含まれていませんので、合計が100%にならない項目もあります。

番号	質 問	評価段階			
		A	B	C	D
1	【深い学び】教材の工夫や支援機器の活用により、一人一人の視覚障がい等の状態や特性に配慮した授業実践を行い、進路実現に必要な確かな学力の向上に努めることができたか。	34%	64%		
2	【深い学び】指導形態を工夫し、学び合いの機会を創出するとともに、各教科等の関連性を深め、基礎基本の定着を図りながら実際の社会で生き生きと生活できる力を育成することができたか。	25%	66%		
3	【深い学び】（理療科職員のみ）理療科においては、臨床の知識・技能の定着を図り、国家試験合格とあはき師のプロフェッショナルの育成に努めたか。	42%	58%		
4	【豊かな人間性と社会性】触れる・聞く等の体験的活動や支援機器の活用を通して、満足感や成就感を高めながら豊かな人間性を育むことができたか。	32%	66%		
5	【豊かな人間性と社会性】地域や近隣の学校と交流及び共同学習やボランティア活動を通して、社会の一員としての自覚を高めさせ、互いを理解し学び合う教育活動を推進したか。	18%	75%	5%	
6	【豊かな人間性と社会性】地域支援センターの役割の理解啓発に努め、教育相談により視覚障がいを有する方とその家族を支援し、自立と社会参加を促したか。	50%	41%	5%	
7	【心と体を守る】幼児児童生徒が自らの障がいや健康に関心を持ち、主体的で適切な健康管理ができるよう、食育や健康教育を推進したか。	39%	61%		

8	【心と体を守る】将来にわたって健康な生活を営むことができるよう、家庭や医療・福祉・労働等の関係機関との連携を進めながら、幼児児童生徒の障がいの状態等に応じた適切な指導及び必要な支援を行うことができたか。	25%	71%	2%	
9	【心と体を守る】（寄宿舍指導員のみ）生き生きと自立した生活ができる力と社会性の育成のために、家庭と連携しながら視覚障がいに対応したきめ細かな生活指導を行うことができたか。	71%	29%		

・1人学級において、授業での学び合いの機会を創出することが難しかったです。各教科等の関連性を深める機会を意図的に設ける必要があると感じました。

・オンラインにより県を越えての交流活動は行っていましたが、地域や近隣の学校との交流は少ないように感じました。

・コロナ禍が終わり、実習指導や諸活動の際の生徒との身体的距離で悩むことが無くなり、充実した指導ができるようになったと感じています。

・引き続き、研修を活用した授業実践や関係職員と連携して指導にあたります。

・交流に関して、例えば中学部の場合はオンライン交流が中心となっています。生徒の実態や地域の学校の実情などから「近隣の学校との交流は難しい」となった場合には、オンラインでやりとりしている他県の盲学校、視覚支援学校との直接交流ができればとも感じています。東北地区盲学校文化体育大会やフロアバレーボール大会等をうまく利用していければと思います。また、過年度のように、地域の学校とも、行事等をうまく活用して交流の場を設けたいと考えています。

教職員対象の学校評価アンケートの分析

(1) 「深い学び」

「深い学び」の3つの質問では、いずれも高評価でしたが、B評価の割合が高いことから、過半数の教職員が、深い学びの実現に関して、なお改善すべき点があると考えていることがわかります。また、ほぼ全ての教職員が充実感、達成感、向上心を抱きながら、教育活動に意欲的に取り組んでいることも明らかになりました。令和5年度は、研修部が主導して、「教育的ニーズの的確な整理を基にした授業づくり」をテーマに、教職員全体で授業を改善していくことを目指しました。長期にわたる校内研修を通して、それぞれの教職員が、幼児児童生徒の姿から教育的ニーズを的確に整理し、指導内容を具体的に設定して実践することをより一層意識することができたと考えられます。

(2) 「豊かな人間性と社会性」

新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、学校内外の行事、大会への参加、交流活動、共同学習等の教育活動を積極的に実施できたことに対して、幼児児童生徒の学びの深まりを実感し、大きな達成感を抱いている教職員が増えたことがわかります。

具体的には、健太康太スクールコンサートやバリアフリー演劇、落語ワークショップ等の芸術鑑賞や、近隣の小学校との交流活動（運動会、クラブ活動）、オンラインでの交流（小学部、中学部、専攻科理療科、寄宿舍）、校外学習（小学部、中学部）、作業技能大会、特別支援学校スポーツ大会（高等部）、理療科の実習（理療実習、解剖見学実習）、他校との音楽を通しての交流（高校音楽祭参加、校内でのクリスマスコンサート、福島高校・橘高校・大笹生支援学校とのジョイントコンサート）、点字ブロック理解推進キャンペーン等の活動を通して、豊かな人間性や社会性を育むことができたと考えている教職員が多いことがわかりました。

(3) 「心と体を守る力」

いずれの質問においても、ABの高評価が大半を占めました。健康や安全のために、幼児児童生徒一人一人にしっかりと向き合ったり、教職員間で情報を共有したりしながら行う教育活動に、達成感や充実感を抱いている教職員が多いことがわかります。

また、これまでに10年以上も表彰を受け続けている歯科衛生表彰、今年度から開始した医療

的ケアの実施と管理、食育の推進等の取組みにおいて、栄養士、学校医、指導医、主治医、薬剤師、看護師等と連携して適切に教育活動を推進することができました。

寄宿舎における指導につきましても、家庭との連携を重視しながら視覚障がいに対応したきめ細かな生活指導を行うことができたと考えている指導員が多いことがわかりました。

分析に基づく改善の方向

(1) 教育活動の再開と働き方改革

令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は、インフルエンザと同等の5類指定感染症となりました。普段の授業や給食指導、行事等の教育活動はもとより、地域や近隣の学校との交流活動や共同学習等についても、新型コロナウイルス感染症流行以前とほぼ同じ形態で実施されることになりました。

また、この3年間で学校現場にICTが本格的に導入され、一人一台端末の貸与やBYODにより、児童生徒の情報通信機器の活用が推進されるようになりました。

さらに、対面での活動に加えオンラインでの活動やタブレット型端末の利活用など、教育活動の手立ての幅が広がり、個別最適な学びと協働的な学びのより一層の充実が求められるようになっていきます。

一方で、新型コロナウイルス感染症流行以前の教育活動が再開したことにより、在校時間の長い教職員が増加しました。ICTや校務支援システムのさらなる活用、業務の効率化と平準化を図りながら、国や県が進める教職員の働き方改革にも具体的に取り組んでいく必要があります。

(2) 次年度の改善の方向

- ・児童生徒・保護者・学校評議員・教職員による学校評価の分析をもとに改善の方向性を見定めます。

- ・「令和6年度学校教育指導の重点〈特別支援学校版〉」（福島県教育委員会）に示された「連続性のある多様な学びの場を重視した対応」、「一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実」、「自立と社会参加に向けた教育の充実」の理念を踏まえて改善を進めます。

- ・幼稚部を卒業し小学部へ入学する児童への教育を実践しながら、学びの連続性を意識して教育課程を編成してまいります。

- ・今年度の校内研修でより一層高まった「教育的ニーズの的確な整理」に基づいて、教職員の専門性を高めながら、視覚障がいのある幼児児童生徒への教育の充実に努めます。

- ・社会的自立、職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるように、幼稚部・小学部・中学部・高等部のそれぞれの学部において、卒業までに育成を目指す資質や能力を教職員間で共有し、キャリア教育の充実に向けて、家庭や地域と連携しながら努力してまいります。